

私の夢、私の道 —留学生たちのスピーチより—

9月9日(火)、YMCA本館／グローバルコミュニティセンターを会場に熊本YMCA学院日本語科スピーチ大会を開催しました。初級Ⅰ、初級Ⅱ、中級とそれぞれの課程で予選を勝ち抜いた10名が様々なテーマでスピーチを発表しました。2名のスピーチ内容を抜粋して紹介します。



子育てから見える 日本と台湾の教育の違い

ヨウ エンレイ さん
台湾出身

私は台湾出身で現在日本で二人の子どもを育てています。日本へ来る前に、子どもの教育についてあまり深く考えたことがありませんでした。しかし、日本での生活が長くなるにつれて、台湾と日本の違いに気づくようになりました。

どちらの国も少子化が進んでいて、子どもの成長や教育に対する期待が高くなっていると感じます。私が日本で子育てをしていて感じることは、日本の学校が「生活面でのしつけ」や「人としてのマナー」をとても大切にしているということです。毎日挨拶や掃除、時間を守ることなど、社会で生きていくために必要なルールを子どものころから教えられます。この「集団生活で意識すること」を学ぶのは台湾にあまりない教育のスタイルだと思います。

また、日本では、子どもが小さいころから自立心を育てることが重視されています。自分で学校へ歩いて行ったり、自分のことを自分でやったりするのは普通です。一方、台湾の保護者は、子どもをとても大切に守ろうとする傾向があり、多くのことを子どもと一緒にやったり、時々、代わりにやってあげたりすることがあります。先生と保護者の関係にも違いがあります。日本の先生は「自分自身に考えさせる」ことを大切にしています。それに対して、台湾の先生は親が子どもに教えてあげようと要求することが多いです。私はどちらの教育にも良いところと課題があると思います。

今後は日本と台湾の良いところを取り入れて、子どもたちが知識だけでなく自分で考え、行動力を持てるような教育を目指していきたいです。そして何より、子どもたちが楽しく学べる環境をつくってあげることが、母親としての私の大切な役目だと思っています。



教えることの意味に 気づいた瞬間

WILLS ONISHI TANISHA さん
ボリビア出身

日本に来たばかりの頃は、新しい環境に慣れるのがとても大変でした。言葉や文化にとまどい、授業もよく分からず、不安な日々が続いていました。

そのような中で、保育園に通っていた妹のことで忘れられない出来事がありました。妹はまだ3歳で、日本語が分からず、少しいたずらっ子で、よく他の子どもとけんかをしていました。それでも、保育園の先生はいつも優しくしてくださり、妹が孤立しないように細かいところまで気を配ってくださいました。

その姿を見ながら、「このように人を助けることができる先生はすばらしい」と思うようになりました。そして、「いつか自分も子どもの支えになれる先生になりたい」と考えるようになりました。

私は子どもと関わるのが好きで小さい子の笑顔を見ると元気をもらえます。子どもたちの成長を近くで見守りながら、一人ひとりの心に残るような仕事をするのが私の夢です。ですから将来は保育について深く学び、思いやりと責任感を持って、子どもたちと向き合うことができる人間になりたいと考えています。もちろん、先生という仕事は簡単なものではないと思います。しかし、今まで出会った先生方のように、相手のことを大切に思う気持ちを持ち続けられれば、きっとできると信じています。

私はこの経験を通して見つけた夢を大切に、これからも努力を続けていきます。



Pickup

お祭り楽しいね。
熊本五福幼稚園 わいわい祭



お手伝いしてるよ。
みなみサザンフェスタ

羽釜でご飯を炊いたよ。
むさしGCCデイキャンプ
in三つの木の家



I n f o r m a t i o n

YMCAフィランソロピー協会 創立30周年記念セミナー&異業種交流会



主催 YMCAフィランソロピー協会

防災セミナー

テーマ 熊本地震から10年 過去の災害に学ぶ“日頃の備え”とは
～家庭・地域・企業の防災～
日 10月10日(金) 17:00～18:30
講師 早田 蛍さん(気象予報士、防災士、NPO法人防災WEST副理事長、熊本市防災会議委員)
場 肥後銀行本店 大会議室(熊本市中央区練兵町1)
費 無料



講師 早田 蛍さん

異業種交流会

場 中華旬菜 燕燕(熊本市中央区練兵町54-4)
日 10月10日(金) 19:00～21:00
費 5,000円
定 30名 ※名刺をお持ちください。
お申込みはWebで▶
セミナーのみ、交流会のみの参加も可能です。
問 YMCAフィランソロピー協会事務局 Tel 096-353-6397



YMCA祭



YMCAの各施設で実施されるYMCA祭。今後予定しているものをお知らせします。
なお、益金は、年末募金、国際協力、地域活動等に用いられます。

前進祭

日 11月2日(日) 10:00～14:00(予定)
場 熊本YMCA本館／グローバルコミュニティセンター(熊本市中央区段山本町4-1)
内 キッチンカー、学生による出店、ステージプログラム、のみの市等(予定)
問 熊本YMCA本館 Tel 096-353-6391(音声ガイダンス1)

あそまつり

日 11月8日(土) **場** YMCA黒川保育園(阿蘇市黒川字山下1708-1)
内 のみの市、ビンゴ大会等(予定) **問** YMCA黒川保育園 Tel 0967-34-0402

東部わいわい祭り

日 11月9日(日) **場** 東部グローバルコミュニティプラザ(熊本市中央区帯山2-1-11)
内 帯西まつりと同日開催。食バザー、ゲームコーナー、音楽コンサート(予定)
問 東部グローバルコミュニティプラザ Tel 096-382-6661

熊本YMCA学院 専門学校 願書受付開始



出願期間 第1回 10月1日(水)～8日(水)、第2回 10月13日(月)～22日(水)
問 熊本YMCA学院事務局 Tel 096-353-6393



学科

学科名	目指せる職業・資格
一級・二級建築士をめざす 建築科	建築士・インテリアデザイナー・住宅設計・建築設計士・ 建築施工管理技士
東京YMCA国際ホテル専門学校連携 ホテル観光科	ホテル・観光・プライダプランナー・レストランサービス技能士
日本医師会認定医療秘書養成校 医療秘書科	医療秘書・医師事務作業補助・医療事務・看護事務補助・薬局事務
スポーツ指導現場との連携 健康スポーツ科	スポーツインストラクター・NSCA認定パーソナルトレーナー・ 介護予防運動指導士
指定保育士養成施設 こども保育科	保育士・幼稚園教諭・児童指導員・児童支援員
新設 留学生対象 国際ビジネス科	外資系企業スタッフ・国際営業スタッフ・商社系企業スタッフ・ 貿易事務系スタッフ・バイヤー・フライトアテンダントなど

第10回熊本YMCA インターナショナル・ チャリティーラン



日 11月16日(日) 10:00～13:30(予定)
場 益城町総合運動公園 陸上競技場

コース・費用

ファミリーラン	3,000円／1家族
グループラン(5名)	小中学生 5,000円／1チーム
	高校生以上 10,000円／1チーム
個人ラン	小中学生 1,000円
	高校生以上 2,000円
つながるラン(寄付で参加)	2,000円／1口

益金はYMCAが全国で展開する支援が必要な子どもたちのための活動に用いられます。

問 熊本YMCA 本部事務局 Tel 096-353-6397



市民クリスマス2025 チャリティコンサート



日 12月6日(土) 14:00～16:00(予定) ※13:30開場
場 日本福音ルーテル神水教会(熊本市中央区神水1-14-1)
費 1,000円(高校生以上) **出演者** 坂田飛鳥さん(シンガーソングライター・作曲家)、河野里菜さん(チェリスト)、黒木真子さん(ヴァイオリニスト) **特別出演** Ange briseによるハンドベル演奏 **催** 市民クリスマス2025実行委員会 **問** 熊本YMCA学院 Tel 096-353-6393(担当:吉田)
公共交通機関でご来場ください。チケットの取扱いは10月15日(水)から熊本YMCA各施設で行っています。
※益金は熊本YMCAを通して、令和6年能登半島地震支援、熊本豪雨災害支援、子どもの居場所作り活動への寄付として用いられます。

日 日時 場 会場 内 内容 費 参加費 定 定員 条 参加条件 持 持ち物 対 対象 催 主催 締 締切 申 申込 問 問合せ 他 その他

R | E | P | O | R | T

国際

海外からの研修生 異文化理解を深める



ICCPJ参加者 オン・ティ 温庭（台湾）

ICCPJ (International Camp Counselor Program Japan) は、YMCAが国際的な相互理解と青少年育成を目的として行っている交流プログラムです。私は今回、7月13日(日)～8月14日(木)の長い期間を海外で過ごしました。初日に熊本YMCAスタッフと出会い、その後はYMCA阿蘇キャンプを拠点に様々なお客様を迎えました。食器洗いや掃除、温泉の準備などを手伝いました。

特に印象に残ったのはアジア太平洋地域コースコンボケーションに参加したことです。世界平和をテーマに、各国のユースが話し合い、多くの国の人たちと友だちになりました。多くの外国人と会ったのは初めてであり、とても有意義な時間でした。また、3度、ホームステイをしました。訪れた家庭は温かく迎えてくれ、どれも忘れられない記憶となり、私の人生で一番心に残る夏休みとなりました。ここで出会った人たちとのご縁を大切に、また機会があれば熊本を訪れたいです。



野外教育

自然の中で学ぶ 阿蘇留学2025を実施



阿蘇留学参加者 中学2年生 鈴木春樹

YMCA阿蘇キャンプに住み込み、自然体験やキャンプ運営の補助などを行う中高生対象の「阿蘇留学」に参加しました。8月3日(日)～13日(水)の期間、新しい発見や学びが絶えませんでした。一番印象に残ったものはキャンププログラムの下見です。事前に場所を徹底的に調べ、実際に探索する、という多くの工程がありました。いつもは参加しているプログラムが裏では大変な準備をする人

がいることを学びました。

次に印象に残ったことは阿蘇最高峰の高岳に登ったことです。阿蘇噴火口を見下ろし、阿蘇の自然の雄大さを肌で感じました。下りは通常ルートから外れ、川や湧き水、滝つぼの池等を回りながら下りました。

9泊10日の阿蘇留学では大変なこともありましたが、期間中に得た発見や学びはとても貴重なものとなりました。この経験を忘れずにこれからの学校生活や日常に活かしていきたいです。



非日常体験

日常から離れて “ぷらっとCanp”を実施



東部グローバルコミュニティプラザ 下田大雅

8月24日(日)～28日(木)の4泊5日、YMCA阿蘇キャンプで「ぷらっとCanp(キャンプ)～ぼくらの夏休み編～」を実施しました。「Canp」という名前には、非日常のできた体験、「Can(できる)×Camp(非日常)」という願いが込められています。

今回のキャンプは、文部科学省の委託事業「青少年の体験活動等を通じた自立支援プロジェクト」に採択されており、キャンプを通じた自己肯定感、

自己効力感、自然への関心向上を目指しました。参加者はスタッフを含め計15名。川遊びや野外炊飯、キャンプファイヤーなどを行い、自然、キャンプを感じることでできるプログラムとなりました。初めての火起こし、初めてのキャンプファイヤー。非日常空間での、非日常体験。そこでの香りや景色、温度や感覚、そして「できた」という体験はこれからも子どもたちの中にあり、糧になると思います。最終日の子どもたちの疲れ切った顔の奥にある温かな想いは、5日間で得ることのできた宝物です。



熊本YMCA 総主事 伊藤 眞太郎



うまくやるより、全力でやる

10月といえば、熊本YMCAが誕生した月です。戦後間もない1948年、この地に生まれたYMCAは、今年で77歳。人間でいえば喜寿を迎えました。まだまだ元気です。

さて、最近、「うまくやる」ことが求められる場面が増えたように感じます。要領よく、効率的に、ミスなく立ち回る——そんな働き方や生き方に、知らず知らずのうちに自分を当てはめて

しまうことはないでしょうか。けれども、わたしはやっぱり「うまくやるより、全力でやる」ことを大切にしたいと思っています。誤解のないように言えば、「全力でやる」というのは、“余力を削って、限界まで走れ”という意味ではありません。むしろ、自分の心の内側と丁寧に向き合いながら、今の自分にできる最善を、自分の意志で選び取っていくこと。それが本当の意味での「全力」ではないかと感じています。

誰かに褒められるためでもなく、評価されるためでもない。自分自身が納得できるように、今日という日を丁寧に歩んでいく。その原点は、心の深いところにある自分の声に気づくこと。その声に誠実に応えることにあるのだと思い

ます。わたしにとっては、それは「日々の祈り」の中にあります。静かなひととき、自分の弱さも、葛藤も、願いも、そっと神様に差し出す。すると、ふと自分との対話がはじまり、誰かとの関係にも、仕事にも、「全力で向き合いたい」という気持ちが芽生えてくるのです。そうして過ごした一日の終わりには、たくさんの人たちの顔が思い出され、「感謝」がふわっと心に広がります。

効率や成果だけでは測れない、生き方としての“全力”。皆さんにとっての“全力”とは、どんな姿でしょうか。こどもたちも、若者も、大人の背中を見えています。うまくなくてもいい。かっこよくなくてもいい。「あの人、なんか全力だね」——そう言われる人でありたいですね。

サマーキャンプ 2025

サマーキャンプに参加した子どもたちの様子をご紹介します。



わたしのYMCAストーリー

誰かの笑顔のために

熊本YMCA常議員 本館／GCC運営委員 山本 明子



日々の中で、「誰かの笑顔のために何かせずにはいられない」、と思うことがあります。目の前に白杖を持って歩いている人、地震で家を失った人々、大雨で被害を受けて途方に暮れている人、どうにもならない壁にぶつかって立ち止まっている人に出会ったり、そんな時、こんな私でもできることはあるのか？と自問し、そして様々なボランティア活動に参加するようになりました。気が付くと周りにYMCAの方々がいて一緒に活動していました。現在、高齢者コミュニティカフェと子ども食堂を運営しています。開設や運営にあたってもYMCAの皆さんからたくさんの支援をいただきました。以前暮らしていた栃木県でご縁があり、そして昨年の春からは故郷熊本につながり、一歩ずつ前へ進んでいることを実感しています。未来が今よりもっとよくなりますように。

※このコラムではYMCAに関わる皆さんに「みづかる。つながる。よくなっていく。」「ポジティブネットのある豊かな社会」をテーマに寄稿をいただきます。

ワイズメンズクラブリレーコラム

YMCAよし・ワイズよし・メンバーよし

熊本むさしワイズメンズクラブ 高本 二郎

早いもので、むさしグローバルコミュニティセンターが30周年を迎えます。

むさしクラブにチャーターメンバーとして参加し、多くの方々と交流ができ感謝の気持ちでいっぱいです。あっという間の30年間と感じ、センター祭でのバザー・焼き芋等の販売が思い出されます。私個人としても、YMCAをサポートすることが満足にできていませんが、今後担当主事さんと協力しながらYMCAよし・ワイズよし・メンバーよしの精神をもって活動していきたいと思います。

11月22日には熊本地区のワイズメンズクラブでチャリティーコンサートを催す予定です。

※ワイズメンズクラブ国際協会は、YMCAをサポートする世界的な奉仕団体です。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区段山本町4-1
TEL 096-353-6397(代)

発行人／伊藤 真太郎 編集／熊本YMCA ICR
定価60円 購読料は会費を含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



公式LINE

熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウエルネス活動 平和な世界

2025年度基本聖句

何事も愛をもって行いなさい
コリントの信徒への手紙一 16章14節